

# 佐高所蔵の標本で見る 特別天然記念物

明治34年（1901年）に栃木県第四中学校として開校した本校には、多数の生物標本が所蔵されています。生物標本には、剥製標本116点（ほ乳類31、鳥類60、爬虫類9、魚類16）、液浸標本百数十点、他に骨格標本などがあります。剥製標本の多くは、明治38年頃から大正時代にかけて購入されており、現在、国の特別天然記念物に指定されている種（5種）、天然記念物に指定されている種、絶滅危惧種など、希少種が数多く存在します。普段は、収蔵ケースに眠っている本校所蔵の貴重な標本を公開します。



## ☆特別天然記念物 No.1

和名 トキ  
学名 *Nipponia nippon*

かつては日本国内に広く分布したが、肉や羽根を取る目的で乱獲されたため、1925年ごろにはほぼ絶滅したとされていた。しかし、佐渡島で目撃例が報告され、1952年に特別天然記念物に指定された。1981年、佐渡島に残された最後の野生のトキ5羽すべてが捕獲され、佐渡トキ保護センターにおいて、人工飼育下に移された。その後、繁殖の試みは全て失敗し、2003年10月10日、最後のトキが死亡し、日本産のトキは絶滅した。



## ☆特別天然記念物 No.2

和名 ニホンカワウソ  
学名 *Lutra lutra nippon*  
標本の産地 陸前（今の宮城県と岩手県）  
採集日 明治44年（1911年）10月

かつては日本中に広く生息していた。人間にとって身近な存在であり、河童伝説の原型になったと考えられている。最も新しい目撃例は、1979年、高知県におけるもので、それ以後生息の確認は得られていない。1965年に特別天然記念物に指定された。なお、この標本の個体はニホンカワウソの幼体であり、成体の大きさは倍以上になるという。



## ☆特別天然記念物 No.3

和名 アホウドリ  
学名 *Phoebastria albatrus*

人間に対する警戒心が希薄なため、「阿呆な鳥」すなわち「アホウドリ」と呼ばれそうだ。アホウドリはかつては日本近海に多数生息していたが、羽毛布団の原料となることから乱獲され、1949年にはアホウドリ絶滅が宣言された。しかし1951年、鳥島にごく少数が生存しているとところを再発見され、1962年に特別天然記念物に指定された。その後、手厚い保護活動が続けられた結果、2003年には1840羽まで生息数が回復した。



☆特別天然記念物 No.4

和名 タンチョウ  
学名 *Grus japonensis*

丹頂鶴（たんちょうづる）ともよばれる。明治時代は、乱獲により一時は絶滅したものと考えられたが、1924年、釧路湿原のキラコタン岬で僅か十数羽が生息しているところを発見された。1950年に給餌に成功して以来、各地で給餌が行われるようになり、徐々に個体数は増加した。その後の手厚い保護が効を奏し、2001年度の生息状況調査では国内約800羽、2006年度の生息状況調査では国内約1,000羽まで生息数が回復した。1952年に特別天然記念物に指定。



☆特別天然記念物 No.5

和名 オオサンショウウオ  
学名 *Andrias japonicus*

全長は50~60cm、中には1mを越えるものもあり、世界最大の現生両生類である。岐阜県以西の本州および大分県に分布する。山地の渓流域に生息し、一生のほとんどを水中で過ごす。夜行性で、夜になると川底を這いまわり、魚類やカエルなどを大きな口で捕食する。1952年に特別天然記念物に指定。天然記念物に指定される以前は、貴重な蛋白源として食用としていた地方も多い。さばいた際に強い山椒の香りが家中に立ち込めたことが山椒魚の語源ではないかとされる。

なお、液浸標本のアルコールは全て揮発しており、乾燥した状態である。

## その他の貴重な標本(抜粋)



マガン *Anser albifrons*  
【国の天然記念物 1970】



ルリカケス *Garrulus lidthi*  
【国の天然記念物 1921】



オオコウモリ sp (種名は不明)  
【国の天然記念物?】



カモノハシ *Ornithorhynchus anatinus*  
【オーストラリア政府 により嚴重管理】



タイマイ *Eretmochelys imbricata*  
【絶滅危惧IB類】



ハリモグラ *Tachyglossus aculeatus*



カンガルー亜科 *Macropodinae*



センザンコウ目 *Pholidota*



タヌキ *Nyctereutes procyonoides*  
【産地：信濃、明治40年採集】